

森に緑を
住まいに木を



NPO木の家だいすきの会

木の家だいすきの会 通信

2014年10月発行

特定非営利活動法人 木の家だいすきの会
E:Mail: office@kinoie.org
URL: http://www.kinoie.org
facebook:
http://www.facebook.com/NPO.KinoieDaisuki

■所沢事務所
〒359-1116 埼玉県所沢市東町 11-1-1704
TEL 04-2926-6045 / FAX 04-2926-5743
■東京事務所
〒160-0011 東京都新宿区若葉 1-6-1-102
TEL 03-5366-4772 / FAX 03-5366-4702

木の家だいすきの会 通信では、家づくりに関する情報や、会の活動、事例などをご紹介します。

温熱環境と健康な暮らし

NPO木の家だいすきの会 代表理事 鈴木進



日本の浴室での死亡事故者数は、欧米先進国の10倍以上で世界的に見ても群を抜いて大きいことをご存じでしょうか。日本ではヒートショックで亡くなる人は、実に交通事故死亡者数約4千人の3.5倍に当たる年間1万4千人に達します。交通事故の死亡者数は1970年に1万7千人に達し、大きな社会問題となった結果、全国的な交通事故撲滅運動が展開されて2013年には約4千人にまで減少しました。ヒートショックによる死亡が国民的課題になるのも時間の問題と言えるでしょう。ヒートショックの理由としては、「浴槽につかることを好む」うえに「浴室の室温が低いこと」などが大きな理由と言われており、住宅の温熱環境が主要な原因の一つとなっています。

木の家だいすきの会では、「森の息吹を住まいに！」をスローガンに「グリーンエア工法」の開発に着手しました。この工法は、「健康な住まい」をテーマに、「住み手」と「住い」の健康を共に追い求めた工法です。ヒートショックを防止するためには、家全体の断熱性を高めて、従来暖房をしていない浴室や脱衣室も含めて、家の中の温度差を少なくし、身体への負担を取り除くことが有効な手段となります。しかし、やっかいなことに、断熱性を高めると結露発生のリスクが高まってしまいます。結露は、冬のガラス窓やサッシに発生する眼に見える結露と壁の内部で発生している眼に見えない結露があります。前者は、室内におけるカビの発生などを助長し、別の健康問題を誘発します。壁の内部の結露は腐朽菌の増殖などにより建物の劣化を早め、「住い」の健康を損ないます。

木と漆喰は共に吸放湿性が高く、梅雨の湿気の高い時期は空気中の湿度を吸ってじめじめ感を緩和し、冬の乾燥した時期には、逆に湿気をはいて室内環境をやわらげます。この吸放湿性が、木と漆喰の家が気持ち良いと感じる大きな理由です。

断熱性を高めつつ、防露するための標準仕様として防湿気密シートを張る工法が定められていますが、せっかく木と漆喰を使って防湿気密シートを張ったのでは、吸放湿性を減ずることになります。そこで、健康への良い影響がはっきりわかる水準まで断熱性を確保(Q値2前後を目標)しつつ防湿気密シートを使用しないで防露を達成したものがグリーンエア工法です。今年の2月には、モデル住宅が埼玉県所沢市に建ちました。現在、温度・湿度を定期的に計測し、半年後には年間の実証データが揃いますので効果のほどを見て頂くことができるでしょう。



コラム：設計者の目

今回は、設計者・中村展子さん(アトリエ海)のコラムです。

「時をつなぐ」住まいのリフォーム

アトリエ海・中村展子



ここ数年、住まいの耐震性や省エネについての関心が高まる中で、家族構成やライフスタイルが変化する時期に差しかった同年代(50-60歳台)の方々から、リフォームの設計依頼が何軒か続きました。

建物のリフォームに際しては、老朽度や耐震性をチェックする構造調査が、まず必要です。それを基に、構造の補強や、老朽箇所の補修、断熱材の補充等により建物の基本性能を整えながら、暮らしやすさを考えた間取りの変更、水廻り設備の更新、建具や内外装の更新などを、必要に応じて行います。

お施主さんも20年、30年と住んでいるので、事前の聴き取りで家の歴史をうかがうと、様々な思い出が出てきたり、天井裏をのぞいて小屋組みが見えると、過去の増改築の痕跡が解ったり、面白いことが色々あります。

このような中から、家に対する施主さんのこだわりや愛着を掘り取って、新しい計画に生かし、これまで積み重ねてきた時間が作り出す魅力を先につなげるのが、リフォームの意義だと思います。手がけた事例でも、新築とはまた一味違う、しみじみとした満足感が、施主さんにも設計者にもありました。

○神楽坂の家

2階の数寄屋風の和室の雰囲気や極力残し、1階の生活空間を無垢の木と漆喰の内装で、快適にしました。1階はいったん骨組みを現わして、耐震補強をしています。

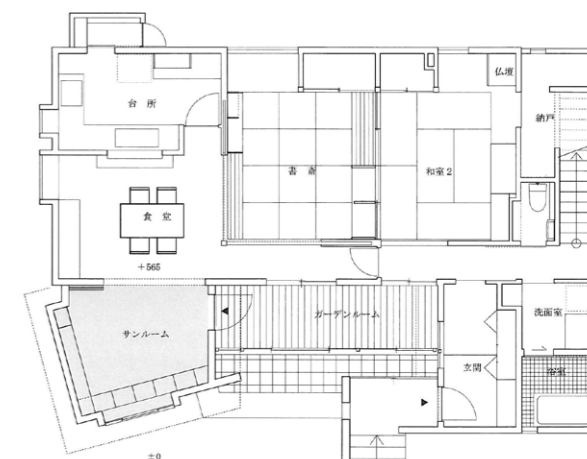
「書道家だった叔母の大切にしていた和室を生かせることが良かった」と施主さんの話です。



○大泉の家

両親から受け継いだ築45年の家を耐震補強し、キッチンから居間、ウッドデッキへと、一連につながる空間にし、自慢の庭の眺めがいつも楽しめる住まいになりました。

結婚した娘さんたちやその友人もよく訪れて、飲み会をするとのことでした。



○茂庭台の家

約30年前に設計し、3.11の大震災にも耐えた友人の家で、まだ仕事で忙しい夫妻の快適な住まいとなるように小さな増築をしました。居間・食堂から角度を付けて庭に飛び出た部屋は、無垢の木の感触が味わえるポケットのような空間です。息子さんたまに帰省すると、ここに布団を敷いて寝ているそうです。

見学会などのお知らせ

10月20日(月)～25日(土) 建築展「木と漆喰のリフォーム」(アトリエ ヌック)
10月25日(土) 住まいの無料相談 @新宿・初台
11月9日(日) 10:00～14:00 石神井の家完成見学会(設計:大沢宏・コウ設計工房)